



2023 冬 号

No. 124

～ 特 集 ～

【流域治水対策の取り組み】

・和歌山県

熊野川における輪中堤の整備について

・福井県

流域治水の自分事化に向けた取り組み

～福井県流域治水リーフレットの作成～

・神戸市

明石川水系伊川と太山寺の歴史について

～トピックス～

・滋賀県

第15回淡海の川づくりフォーラムを開催しました

・和歌山県

「令和5年度近畿地方治水大会」を開催しました

・近畿地方整備局 河川部 地域河川課

管内府県・政令市担当者による

近畿ブロック河川維持管理会議を開催

～きんきのダム巡り～

・京都府

大野ダム

～インフォメーション～

・近畿地方整備局 河川部 地域河川課

「流域治水に関する現場研修会」を開催しました！！



ページ

河川紹介

- 2 竜田川（斑鳩町ほか） …… (A)

特集

『流域治水対策の取り組み』

- 3 熊野川における輪中堤の整備について
和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 河川課 …… (B)

- 5 流域治水の自分事化に向けた取り組み
～福井県流域治水リーフレットの作成～
福井県 土木部 河川課

- 7 明石川水系伊川と太山寺の歴史について
神戸市 建設局 河川課 …… (C)

トピックス

- 9 第15回淡海の川づくりフォーラムを開催しました
滋賀県 土木交通部 流域政策局 広域河川政策室
（淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局） …… (D)

- 13 「令和5年度近畿地方治水大会」を開催しました
和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 河川課 …… (E)

- 14 管内府県・政令市担当者による
近畿ブロック河川維持管理会議を開催
近畿地方整備局 河川部 地域河川課 …… (F)

きんきのダム巡り

- 15 大野ダム
京都府 建設交通部 河川課 …… (G)

インフォメーション

- 16 「流域治水に関する現場研修会」を開催しました!!
近畿地方整備局 河川部 地域河川課 …… (H)

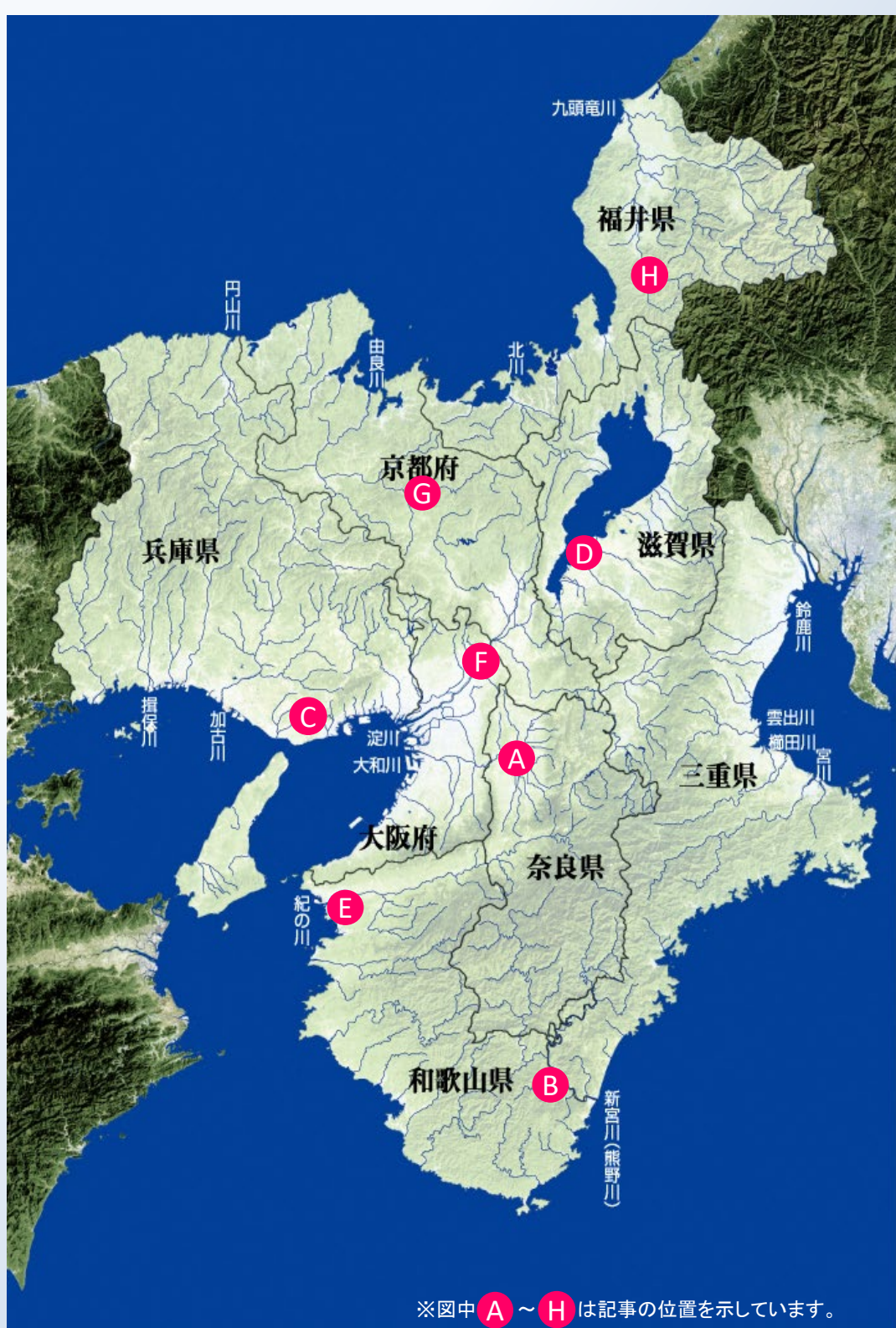


竜田川（たつたがわ）

竜田川は、生駒山なまこやまの北東の山麓より生駒山・信貴山のぶきが連なる生駒山地や矢田丘陵を流下する、流域面積54km²の一級河川です。

能因法師のぶいんや在原業平のむらきへいらの歌にも見られるように、もみじの名所として全国的にも著名な川でもあります。

竜田川沿いには、総延長約2kmの竜田公園が隣接しており春には三室山の桜さくら、初夏には新緑、秋には紅葉と、四季を通じて自然に親しむことができます。



※図中 A ~ H は記事の位置を示しています。



紅葉時の竜田公園



馬鋏淵（平群町）
へぐりちょう

馬鋏淵（まぐわぶち）

近鉄東山駅より徒歩8分に位置する馬鋏淵は、大きな音を立てて流れ落ちる水や流れによる浸食で角が丸みを帯びた岩、底が見えないくらい深い淵などの溪流となっており、大和川流域の中でも川の力強さを感じられるスポットです。

くまのがわ
熊野川における輪中堤の整備について

和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 河川課

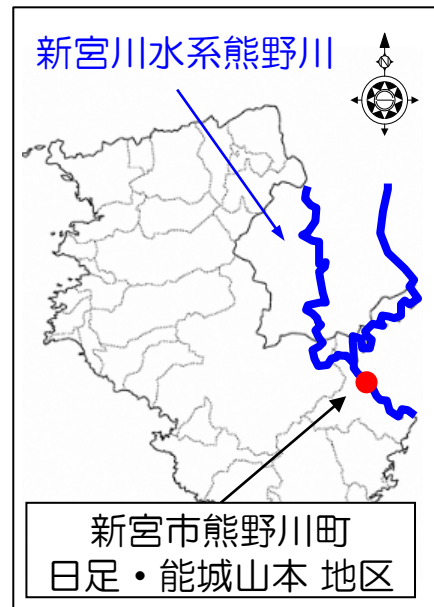
○ 新宮川水系熊野川について

熊野川は、幹川流路延長183km流域面積2,360km²の一級河川であり、源を奈良県吉野郡天川村の山上ヶ岳（標高1,719m）に発し、十津川渓谷を南流して左支川・北山川と合流し和歌山県と三重県との県境を南東方向に流下し、和歌山県新宮市と三重県南牟婁郡紀宝町との境に位置する河口より熊野灘に注いでいます。また、熊野川流域は熊野三山や大峯山などの信仰の中心地として栄えた歴史を有し、熊野本宮大社、熊野速玉大社等の歴史的遺産を有しています。

熊野川においては、平成23年9月の紀伊半島大水害をはじめとして度重なる洪水により浸水被害が発生しており、特に、新宮市熊野川町の日足地区・能城山本地区においては、平成23年の紀伊半島大水害による浸水被害に加え平成26～30年の5ヶ年の間に4度の浸水被害が発生しました。

これらの浸水被害の軽減のため、国や三重県、奈良県、和歌山県が連携し、河道掘削などの治水対策を実施しています。

和歌山県においては、日足地区・能城山本地区で輪中堤の整備や宅地嵩上げといった対策を実施しています。

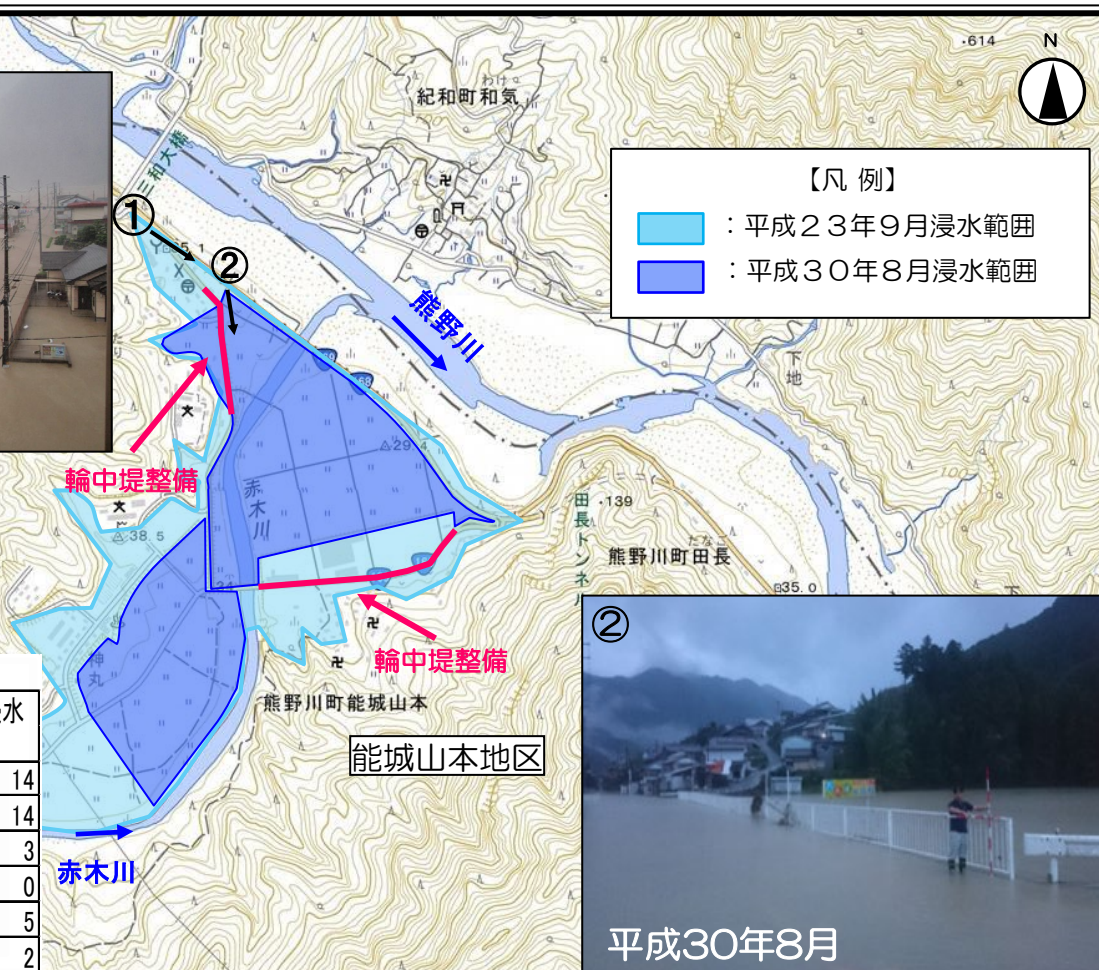


過去の被害状況



日足地区

日足・能城山本地区 被災状況		
被災年月日	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)
平成23年7月	7	14
平成23年9月	61	14
平成26年8月	0	3
平成27年7月	3	0
平成29年10月	6	5
平成30年8月	7	2

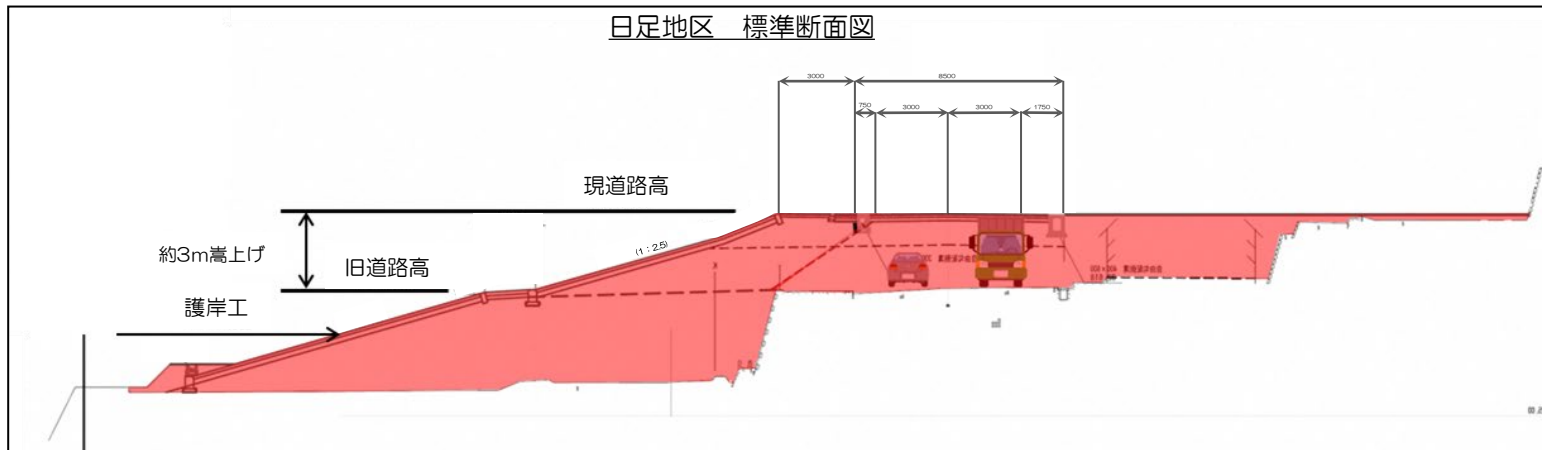


○ 日足地区における輪中堤の整備・宅地の嵩上げ

日足地区では土地利用一体型水防災事業として、一部区域の氾濫は許容しつつ、住家を洪水による氾濫から防御するため、輪中堤の整備や宅地の嵩上げを実施しました。

氾濫を許容する区域については、新宮市の条例である「新宮市熊野川出水災害危険区域に関する条例」において家屋の新築を制限するなど、建築に関する制限と一体となって事業を実施しました。

また、令和元年度からは国の個別補助事業として採択され「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」等の予算を活用しながら集中的に輪中堤の整備を実施し、令和4年12月に輪中堤が完成しました。

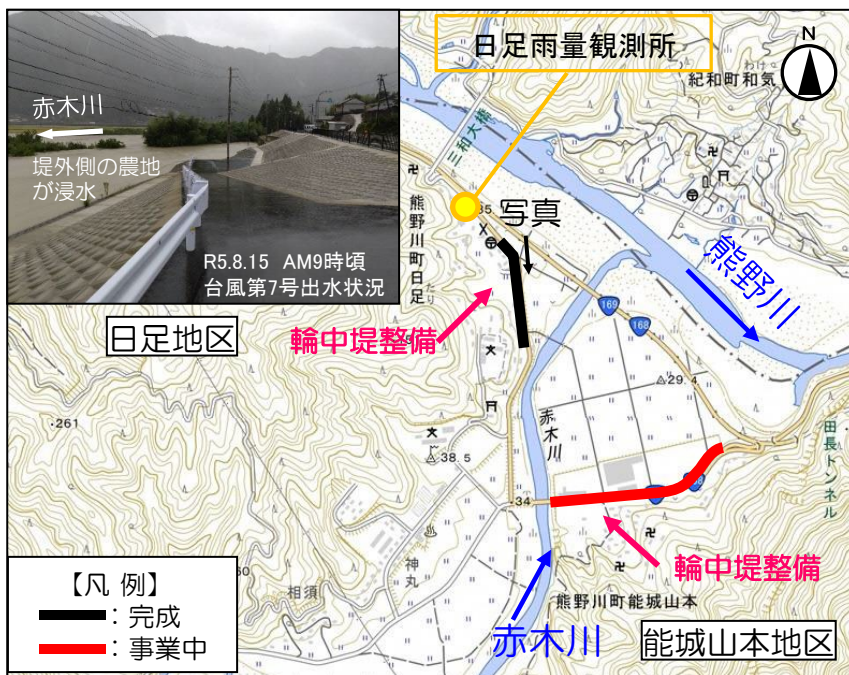


○ 輪中堤の整備等による効果

令和5年の台風第7号（8月14～15日）では、日足雨量観測所において平成30年の台風第20号を上回る規模の雨量を記録し、輪中堤整備前の道路高以上となる出水となったものの、上流の利水ダム（池原ダム・風屋ダム）との治水協定に基づき事前に水位を低下させていた効果と、輪中堤整備によって家屋への浸水被害を防ぐことができました。

○ おわりに

現在、日足地区に引き続き、能城山本地区においても輪中堤の整備に着手しており、早期に浸水被害の軽減を図るため整備を進めています。



流域治水の自分事化に向けた取り組み ～福井県流域治水リーフレットの作成～



福井県 土木部 河川課

○ リーフレットの作成経緯について

流域治水は、流域に住んでいる全員が主体となって治水対策に取り組むものですが、「流域治水」という言葉自体がまだまだ浸透していないのが現状であり、取組を推進していくために「流域治水」の周知・浸透が課題となっています。

そこで、流域治水について分かりやすく身近に感じてもらえるよう、リーフレットを作成して、各地で配布および教材として活用することで、流域治水の取組みを知ってもらおうと考えました。

○ 福井県流域治水リーフレットの特徴

リーフレットのデザインやイラストレーション等については、福井工業大学デザイン学科の学生の皆さんにご協力いただき、打合せやフィールドワークを行いながら作成を進めました。

本リーフレットの特徴として以下のことが挙げられます。

- ①紙面の大部分をイラストで表現し、小中学生が理解しやすいようにしました。
- ②折り方を観音折りにしており、折込面に流域治水対策を行わなかった場合、中面に対策を行った場合を表現することで、見開きでビフォーアフターが分かるようにしました。
- ③全面が俯瞰図のようなイラストとなっており、集水域から氾濫域までをひとつの町のように簡略化して、流域治水の柱である3つの対策（ためる・そなえる・にげる）も絵で示しました。また、各対策が3つの対策のどれにあたるのかを枠線で表しました。
- ④街中の建物にQRコードが隠れており、QRコードを読み込むことで、流域治水対策の詳しい情報が掲載されたHPにリンクするようにしました。
- ⑤リーフレットの裏面に自分たちで取り組める流域治水対策を記載できる場所を設けて、教材としても活用できるようにしました。



図-1 リーフレット表紙・裏面

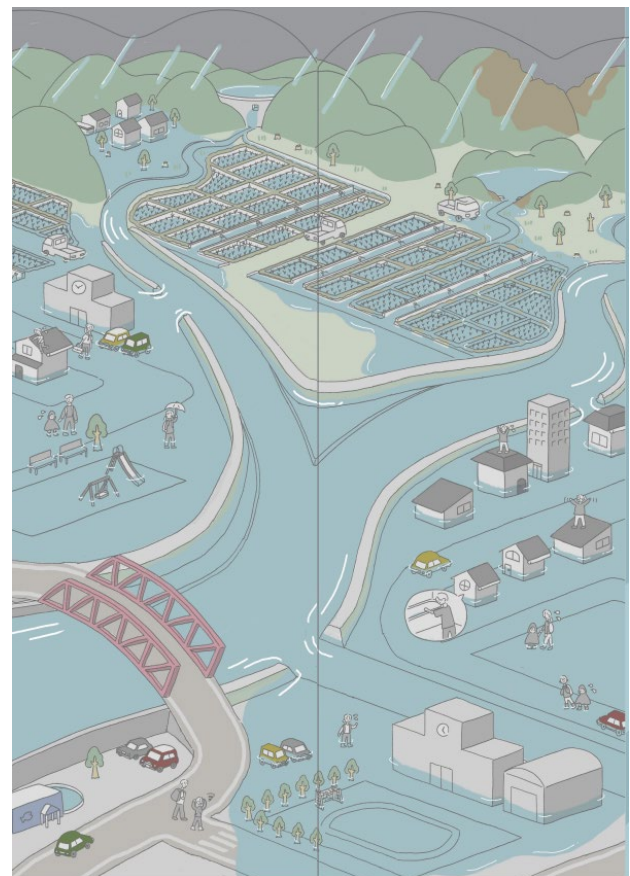


図-2 リーフレット折込面

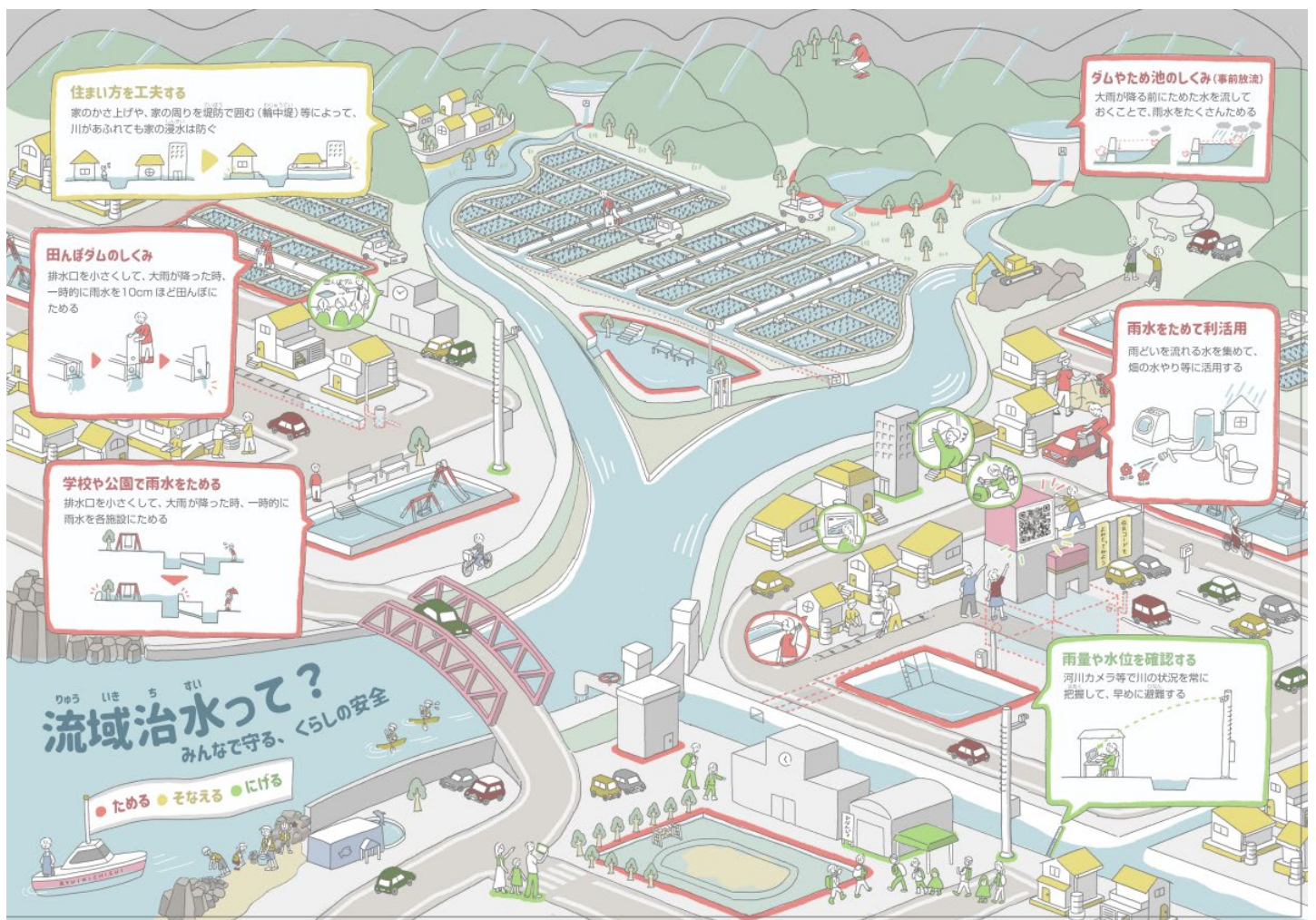


図-3 リーフレット中面

○ リーフレットの活用

① 公共施設にリーフレットを配置

流域治水リーフレットを活用するために、各市町の公共施設にリーフレットを設置していただくよう働きかけました。結果として、全市町の役所・役場を含む約70施設にリーフレットを配置し、住民の方が目にする機会を増やしたことで、手に取っていただけるようになりました。

② 防災講座等で活用

福井県では、令和3年度から流域治水を軸とした防災出前講座を県内各地で開催しており、本講座の教材として活用することで受講者の理解が高まりました。

また、NHKや日本防災士会といった関係機関が主催する防災講座においても、本リーフレットを活用していただいております。



写真-1 防災出前講座

○ おわりに

流域治水の取組みを加速させるには、流域住民の理解と協力が必要不可欠です。今後も福井県における流域治水の周知・浸透に取組みながら、流域治水の自分事化に取り組めます。

あかしがわすいけい いかわ たいさんじ 明石川水系伊川と太山寺の歴史について

神戸市 建設局 河川課

○ 伊川と太山寺について



太山寺本堂

神戸市西区に位置する太山寺とその周辺地域は、原生林を含む八葉蓮華※1にみたてた山々に囲まれた自然豊かで歴史的建造物が多数存在する地域です。

当地域を流れる伊川は、幾度も蛇行しており、その風景は古来より「九曲上流」の風景と呼ばれ、特にその曲流部分は変化のある美しい風景と評価されてきました。

現在、伊川と太山寺は地域住民や来訪者により、河川沿いをハイキングをしながら歴史や文化を楽しむ場となっています。

※1 仏教で仏が坐る八枚の弁をもつ蓮華座

○ 太山寺の歴史

太山寺は、天台宗の寺院であり神戸市で唯一の国宝建造物です。「播州太山寺縁起」によると、藤原鎌足の孫にあたる藤原宇合が奈良時代に建立したと伝えられています。以後、元正天皇の勅願所となり、皇族をはじめ庶民にいたるまで幅広く信仰を集めました。太山寺全盛時には41ヶ坊が存在し、末寺8ヶ寺・末社6ヶ社を持ち僧兵を抱えるほど繁栄していましたが、戦火や有為転変により、現在では歡喜院・龍象院・遍照院・成就院・安養院の5ヶ坊のみが残存しています。



伊川に架かる関伽井橋



断崖絶壁に刻まれた磨崖仏不動明王像

伊川

○ 関伽井橋と磨崖仏不動明王像について

太山寺から伊川に架かる関伽井橋を渡ると、奥の院に通じています。かつては奥の院にある地蔵堂の下から巖窟を通して水が湧き出ており、その霊水は仏前に供する清浄水（アカ）で、この場所はそれを汲む関伽井（アカイ）となっていました。関伽井橋からさらに伊川の上流側には、花崗岩岩肌の高さ6mの地点に等身大（像高175cm）の磨崖仏が刻まれています。

○ 都市基盤河川改修事業について

二級河川伊川の太山寺周辺では、平成6年度より地元の方や専門家を委員とした改修事業に関する小委員会が設置され、平成16年度～19年度にかけて地元や専門家の意見を取り入れながら、多自然に配慮するだけでなく歴史性や九曲の特徴的な流れを活かし、10年に1度の確率で発生する降雨を安全に流すことのできる河川改修を行いました。



石積護岸と石付護床工



植生が生える環境配慮型護岸

二次改修では、30年に1度の確率で発生する降雨を安全に流すことができる河川とするために、河底を掘下げる改修を下流から実施しています。現在は、太山寺下流の幸圓橋付近まで改修しており、伊川全体の改修率は67%となっています。

太山寺地域の改修も令和7年度から予定しており、より自然の風景に見合った改修を進めていく予定です。



神戸市水系マップ



○ おわりに

今回ご紹介した建造物の他にも当地域には歴史的建造物があります。伊川を含めた太山寺周辺を訪れた際には「太山寺珈琲焙煎室」で一息つき、「太山寺温泉なでしこの湯」で旅の疲れを癒してみてもはいかがでしょうか。都会の喧騒を離れ、一味違った神戸市の風景をぜひこの機会に味わってみてください。

第15回淡海の川づくりフォーラムを開催しました

滋賀県 土木交通部 流域政策局 広域河川政策室
(淡海の川づくりフォーラム実行委員会事務局)

令和5年10月22日(日)に「第15回淡海の川づくりフォーラム」(主催：淡海の川づくりフォーラム実行委員会／滋賀県、共催：マザーレイクゴールズ推進委員会、後援：滋賀県河港・砂防協会)を滋賀県守山市のピエリホールで開催しました。

コロナ禍以降はオンライン(Zoom等)を利用した開催となっていました。約4年ぶりに完全対面で開催することができ、一般参加者も含め、約150人の川や琵琶湖、水辺を愛する方々により、熱い議論の交流がなされました。

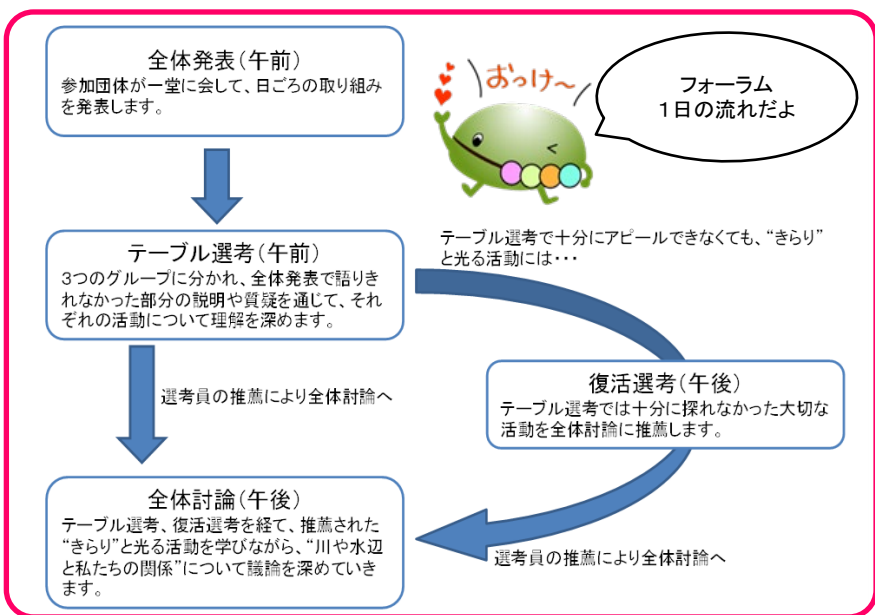
なお、今回のフォーラムは、第31回全国川サミットin守山・琵琶湖のプログラムの一つとして実施しました。

○ 淡海の川づくりフォーラムとは？

淡海の川づくりフォーラムは、滋賀県流域治水条例第34条に基づく県民相互連携の取り組みであり、川や水辺にまつわる活動を実践されている皆さんとともに、“川や琵琶湖、水辺と共生する暮らし”、“川や琵琶湖、水辺と私たちのいい関係”について議論を深める公開選考方式のワークショップです。受賞団体を定めること(順位付け)はあくまでも手段であって、議論と交流を通じて、お互いの活動の「よいところ探し」をして、誉めあい、元気になることが目的です。

15回目となる今回は、県内外から16団体の参加があり、小学生や大学生といった若い方々から、地域に根差し長年活動されている方々まで、幅広い世代から多岐にわたる取組を発表していただきました。

○ フォーラムの様子



★ 復活選考&ポスターセッション



参加者同士の
交流も見られました
名刺
交換中

活動内容をまとめた
ポスターの前で活動をPR!

★ 全体討論



総合コーディネーター・選考員を中心に、
公開選考によりグランプリ等を決定しました

○ 発表団体と当日の選考結果

	団体名	テール選考結果	復活選考結果	活動内容（活動地域等）
A-1	玉ーアクアリウム	○		1年を通して週に1~2回、明石川水系で生物多様性保全活動を実施 活動記録を オリジナル図鑑 にとりまとめ（明石川、兵庫県神戸市西区）
A-2	滋賀県立大学 水利環境論	○	準 グランプリ	姉川とその周辺地域の自然・歴史・文化を遊びながら学べる “ 姉川流域すろろく ”を作成（姉川・米川・天野川・琵琶湖）
A-3	未来生物学研究所			環境保全活動を介した生物の 種の保存 と 理系人材の育成 を実施 （彦根市・米原市・長浜市の河川）
A-4	小さな自然再生ネットワーク			中ノ井川の ホタル 生息エリアを広げるため、第3日曜日の“ 川をあるき ” で水辺の生物を観察（中ノ井川、栗東市）
A-5	びわこ豊穡の郷	準 グランプリ	応援の花 咲いた賞	目田川の生き物たちのために、 子ども達中心 で リサイクル呼びかけなどを実施（目田川、守山市）
B-1	せせらぎの郷須原	グランプリ	○	生物多様性に配慮した琵琶湖と共生する米づくり “ 魚のゆりかご水田 ”を柱とした地域づくり （琵琶湖、野洲市）
B-2	NPO法人国際ボランティア 学生協会（IVUSA）		山紫水明賞	子ども達が琵琶湖の環境問題を学び、考える機会を提供したいという想い から、“ びわ湖の研究者になろうツアー ”を企画・開催（琵琶湖、高島市）
B-3	日野川流域まもり隊	○		不法投棄の温床となってしまう 日野川沿いの清掃活動 を 月1回実施（日野川、近江八幡市）
B-4	海をつくる会	MLGs賞		ダイバー を中心に、 湖底及び湖岸を清掃 ゴミデータを県に提供（琵琶湖）
B-5	京都産業大学鈴木ゼミ	○		鴨川に架かる400年の歴史を持つ 三条大橋 の 魅力発信 をテーマに活動（鴨川・京都市東山区）
B-6	結いの里・椋川			北川に サクラマス が再び遡上できるように、 川の 生き物調査 などを実施（北川、高島市）
C-1	瀬田川リハビリ隊			みんなが気持ちよく過ごせるように… 2003年から 毎月10日・25日に河川の 清掃活動 を実施（瀬田川・高橋川）
C-2	長浜まちなか地域づくり連合会	○		まちなか に残る“ キセキの川 ”の米川で、川歩きや米川まつりなどを 通じて、 地域の顔・誇り をつくっていく（米川、長浜市）
C-3	山内エコクラブ	○		野洲川及びその支川で、月に1度 生き物観察会 を実施 100年後の野洲 川・琵琶湖を守るために 私たちにでもできること 宣言（野洲川・琵琶湖）
C-4	神山つなぐ公社	○		地域の先達に学ぶ 防災教育を兼ねた自然体験の促進活動 活動から派生し て生まれた新たな展開の一つ“ 川すろろく ”などを紹介（鮎喰川、徳島県 神山町）
C-5	滋賀県公園魅力向上推進室・ 南湖東岸ゆうゆうパートナーズ			みんなの美しい 琵琶湖岸の公園 を保つため、 マナー改善 に向けた取組を 実施（湖岸緑地南湖東岸エリア）



○ 議論のまとめ (グラフィックレコーディング & ホワイトボードレコーディング)
 淡海の川づくりフォーラムでは、各団体の発表や活発な議論を『可視化』することを目的に、イラストを交えながらその場でまとめる“グラフィックレコーディング (グラレコ)”を行っています。また、議論のキーワードをホワイトボードにまとめる“ホワイトボードレコーディング”も行っています。

全体発表グラレコ

実行委員から、各団体独自の賞名が贈られました

ホワイトボードレコーディング

★YouTubeで当日の様子をアーカイブ配信を行っています

①発想・着眼 ②関わり ③プロセス ④計画・技術の4つの視点の評価軸 毎にボードにまとめました

ボードのキーワードとグラフィックをセットにすると今日の思い出が蘇ります

キーワードは“越境”!



全体発表 1/2

玉-アリアム

観察 外来種の保全等

自分たちを考えた。自分たちで作る。

リサイクル図鑑

神師 改訂版をついたよ!

Q.学びはどうしているの?

食物連鎖のみに// 教え合いもします!

滋賀県立大学 水利環境論

再現度が高い!

3通りのゴール

遊んで

川も学ぶ 姉川の川

全国にもすごくも!!

大学生の「マニアック」さ たっぷり! オマケもいっぱい!

いろんな目標が集まってきた!

びわこ 豊稔の郷

大好きな目田の生物を守るために!

ルールを守って! 目田にシマ

みんな仲良く生きていくために!

自分が考える

無農薬で

HPを覚えてます!

自分から決めていきます!

たっぷりお茶

せせらぎの郷須原

いろんな大学と 博士 教育も

お米づくりが

広げて価値を上げよう~!

健康水

ラジオリモ

原動力

命を守りたい

交流を増やしたい

流域治水

日野川流域お祭り隊

おみこいを通して

安全の確保

一人の力の大きさ

どこの町の人/草刈り

健康水

ラジオリモ

原動力

命を守りたい

交流を増やしたい

流域治水

いろいろな取り組みがあるなと感じながら描きました
繋がりを感じた1日になりました

みなさんの活動をおして、繋がっていきの様子が見えてすごくワクワクしました

一人一人が自分の視点で自分自身で考えている活動・役割が、他のものも生み出して価値を広げていきます

一つじゃないストーリーが繋がっていくことを教えていただきました

全体発表 2/2

越境線

京都産業大学 鈴木ゼミ

400年! 歴史的価値の 高い 三木大橋

ポスター 日本酒

アロマオイル ツア

モザイクアート

2019年の Xマツジョ

対象者 壁

活動している人が、かこよたから

美体に触れる ことができる

機会づくり

長浜まちなか 地域づくり連合会

あみき

「キセキの川」

遊ぶに来て

川に入って 財産を見つめよう

動物に 気づかされる

山内エコクラブ

箱膳

恵に感謝

自然再生を フォラムで学ぶ

世代とこえて...

一緒に学ぶ!

2年 記憶

魚が釣れた!

学ぶ喜びは?

頭做銭 こぼれに見るのか!

神山つなび公社 WEEK 神山

船喰い

思い出

それぞれの川で それぞれの思い出で

地域に長く 住んでる人

同じ体験を

お茶

お見

クラフック: きあら


淡海の川づくりフォーラムは川と水辺を愛する人の交流の場です。ぜひ、次回のご参加をお待ちしています!

★淡海の川づくりフォーラムホームページ★


【県HP】 <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/kasenkoan/331318.html>

【facebook】 <https://www.facebook.com/ShigaRiverForum>

県HP



facebook



「令和5年度近畿地方治水大会」を開催しました

和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 河川課

水害から国民の生命、財産を守り、安全で快適な生活環境を確保するため、近畿各府県の総意を集結して国へ働きかけ、治水事業の推進を図ることを目的に『令和5年度近畿地方治水大会』を開催しました。

- 【開催日】
令和5年10月17日（火）
- 【開催場所】
ホテルグランヴィア和歌山（和歌山県和歌山市）
- 【参加者】
近畿2府6県の自治体・河川関係団体 約400名
（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、三重県、滋賀県、福井県、和歌山県）
- 【概要】
 - <第1部>特別講演
 - ・「なぜ今、「避難スイッチ」が必要とされるのか—水文気象情報を通じた住民の意識変革—」
香川大学 創造工学部 准教授 竹之内 健介 氏
 - <第2部>治水大会
 - ・意見発表
（和歌山県海南市、和歌山県九度山町、京都府宇治市）
 - ・治水事業概要説明
（国土交通省水管理・国土保全局治水課）
 - ・大会決議
 - ・次回開催府県決定



特別講演

大会に先立ち、香川大学創造工学部の竹之内准教授より『なぜ今、「避難スイッチ」が必要とされるのか—水文気象情報を通じた住民の意識変革—』と題して御講演いただきました。

大会の様子



治水大会



意見発表



大会決議

大会では和歌山県海南市長・九度山町長、京都府宇治市長による流域治水対策や治水行政に関する意見発表の後、大会決議にて「気候変動等により、激甚化・頻発化する豪雨に備えるために、物価高騰の影響も踏まえ本年度の5か年加速化対策については、例年以上の予算規模を確保し、「事前防災対策」としての河川やダム等の整備を強力に進めるとともに、流域のあらゆる関係者の参画と協働のもと、特定都市河川の指定拡大及び特定都市河川流域における雨水貯留機能の強化や水災害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくりを推進するための予算・税制等の新たな支援制度の創設等流域全体で行う「流域治水」の推進に向けた施策を積極的に推進すること。」などについて、国や政府に強く要望することを全会一致で決議しました。

管内府県・政令市担当者による 近畿ブロック河川維持管理会議を開催

近畿地方整備局 河川部 地域河川課

- 国と府県・政令市が、河川の維持管理に係る様々な課題等を共有し、適切な河川維持管理体制の構築を推進するため、令和元年より毎年「近畿ブロック河川維持管理会議」を開催しています。
- 今年は、「河川技術者資格制度の活用」等について府県等の実情を報告頂くとともに、今後の河川管理にどう反映していくことが可能かを意見交換しました。
- また、近畿技術事務所の不具合堤防研修施設やインフラDX推進センターを紹介し、研修等での活用を案内しました。

○会議の概要

- 実施日時：令和5年11月30日（木）13：30～17：00
- 実施場所：近畿技術事務所
- 出席者：管内府県・政令市担当者、整備局 28名（web参加含む）
近畿地方整備局 施工企画課、河川管理課、地域河川課
- 主要議題：緊急浚渫推進事業債の活用促進について
中小河川の堤防等河川管理施設及び河道の点検要領について
河川の陸間の管理・運用に係る総務省の勧告について
河道内樹木のバイオマス活用について
機械設備に関する情報提供（マスプロポンプ）
（意見交換）：河川維持管理技術者資格制度の活用について
許可工作物における不具合事案の対応について
府県・政令市からの事例照会



河川情報管理官
による挨拶



リモート参加者の意見交換



参加者の意見交換



不具合堤防研修施設の紹介



DXセンターの役割等を説明



建設DXのデモ資料を体験

- ・近畿技術事務所に整備されている不具合堤防研修施設やDXセンターの紹介を行い、視察や研修での活用を案内しました。
- ・DXセンターでは、近畿技術事務所のより建設DX推進についての簡単な説明を行い、3Dモデルのデモ資料や樋門操作訓練設備で不具合発生時の対応などを体験することで、効果について実感していただきました。

☆意見交換での参加者からの主な意見

- ・河川維持業務の負担は増えている一方、職員数が足りていない。
- ・点検や不具合発生時の対応などで、職員の負担が増加している。
- ・知見を持つ技術者が業務を行うことで、技術力の向上が期待できる。
- ・河川維持管理技術者資格制度活用のため、国による活用事例を参考にしたい。
- ・長寿命化計画検討業務で、制度の活用をすでに行った事例がある。

きんきのダム巡り



型 式	重力式コンクリートダム
堤 高	61.4m
堤 頂 長	305.0m
堤 体 積	167,000m ³
集 水 面 積	354km ²
総 貯 水 量	28,550,000m ³
有 効 貯 水 量	21,320,000m ³

おおの 大野ダム (京都府南丹市美山町)

大野ダムは、一級河川由良川の流域を洪水被害から守るため、由良川改修計画の一環として洪水調節を主目的とし、発電施設を併せ、特定多目的ダム法に基づき建設省により建設された多目的ダムで、昭和36年に完成し、昭和37年4月から京都府において管理運営しています。

今日まで、降雨による出水に対して24回の洪水調節を行い、下流河川の洪水被害防止・軽減機能を大いに発揮してきました。

ダム貯水池(虹の湖)周辺の公園は、桜・青葉・紅葉、そして雪景色と四季折々に綾なす美しい自然公園として親しまれ、ダム湖は「日本のダム湖百選」に選ばれています。
 ※大野ダムの貯水池は、建設当時に七色の橋(七つの橋)が架けられていたことから「虹の湖」と命名されています。



桜満開の大野ダム湖畔



大野ダムもみじまつりの様子



虹子ちゃん
 (大野ダム
 コンシェルジュ)

「流域治水に関する現場研修会」を開催しました！！

国土交通省 近畿地方整備局 河川部 地域河川課

流域治水の推進をはかるためには、国・県・市等、あらゆる者の連携が不可欠であり、若手職員にとっては具体的な取り組み例などを体感することが重要です。この度、福井県の協力により「鹿蒜川流域治水型災害復旧」や「吉野瀬川ダム」等の現場を勉強する「若手職員の現場研修会」を開催しました。現場で見たこと、感じたことなどを意見交換し、流域治水の取り組みに関して理解を深めるとともに、河川・砂防事業等に従事する若手職員の意識及び技術力向上を図りました。

【開催日】 令和5年8月31日（木）～9月1日（金）

【開催場所】 鹿蒜川災害復旧箇所（河川・砂防事業）

吉野瀬川ダム建設事業箇所（ダム事業）

吉野瀬川放水路箇所（河川事業）

【参加機関】 近畿地方整備局、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県
京都市、神戸市 計44名

ご参加いただいたみなさま、ご協力いただいた福井県さま、ありがとうございました！



鹿蒜川流域 防災・減災プロジェクトの概要説明



流域治水に関する現場研修会は福井県の河川課と砂防防災課による鹿蒜川流域 防災・減災プロジェクト説明から始まりました。

令和4年8月に鹿蒜川で発生した災害の説明や輪中堤等のプロジェクトの取り組み内容、鹿蒜川の災害復旧計画、河川整備計画の変更作業や、今後の砂防設備の整備等の説明をしていただきました。

災害復旧計画や河川整備計画の変更については、短い期間に行う必要があったことによる困難や工夫が紹介され、説明を聞いた参加者からは「今後の参考になる話だった」といった感想がありました。

○鹿蒜川流域 防災・減災プロジェクト¹⁾

- ・福井豪雨に次ぐ災害となった令和4年8月大雨において、被害が集中した鹿蒜川流域の復旧・復興を迅速かつ確実に進めるため、被災施設の復旧に加え、早期に効果が発揮される輪中堤などの新たなハード整備および迅速な避難行動につながるソフト対策を一体的に進めていく。
- ・県と南越前町が連携しながら、流域全体の被害軽減を目指して実施する対策を「鹿蒜川流域 防災・減災プロジェクト」として、進捗状況を情報発信。流域全体の防災力向上につなげていく。

※国は令和4年7、8月の大雨で甚大な被害が発生した水系について、再度災害防止の観点から集中的に対策を実施・進捗管理する「緊急治水対策プロジェクト」に着手、鹿蒜川流域も対象だが、福井県では、治水対策に加え、砂防、治山等の復旧も一体的に実施する「鹿蒜川流域 防災・減災プロジェクト」として拡充

かひるがわ
鹿蒜川流域治水型災害復旧



位置①



鹿蒜川の被災場所での説明



位置②

○現場での説明

鹿蒜川では令和4年に被災した箇所に行き、被災の概要や現在実施している工事、今後計画している工事の概要を福井県 丹南土木事務所より説明していただきました。

現場での資料を用いた説明は大変わかりやすく参加者も理解しやすいものでした。

丹南土木事務所による災害復旧事業の説明



位置③

災害復旧中の鹿蒜川



位置④

整備予定の砂防設備（遊砂地）の説明

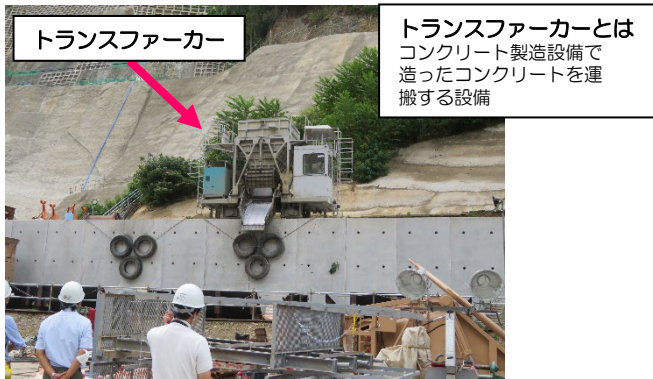
○参加者の感想（アンケートより）

- ・現地を見ることで、県道が予想以上に高いことや、地形的に遊砂地は難しく、輪中堤を採用された理由がよく分かった。
- ・最初の鹿蒜川流域防災・減災プロジェクトの説明を聞いたことで、実際に現場を確認した時により理解が深まった。

よしのせがわ
吉野瀬川ダム



吉野瀬川ダムの概要説明



トランスファーカーのデモンストレーション



吉野瀬川ダムの地質（堤体左岸）



吉野瀬川ダムでは現在施工中のダム本体工の現場で、吉野瀬川ダム建設事務所より説明をしていただきました。

見学時は堤体コンクリートを打設中であり、建設途中だからこそ見ることができる本体工事の内容でした。

○参加者の感想（アンケートより）

- ・吉野瀬川ダムは事前にご説明いただいた地質の違いが現場でもはっきり確認することができたのはよかった。
- ・現場のコンクリート製造設備からコンクリートをバケツに搬入するデモンストレーションも見ることができ有意義なものとなった。

吉野瀬川ダムの情報は下記からも発信されています。

ホームページ



Youtube

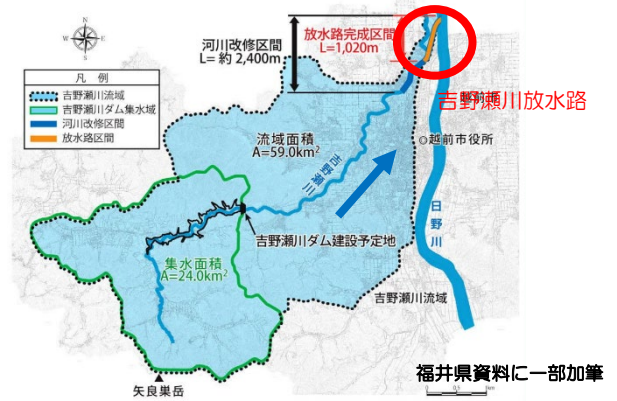
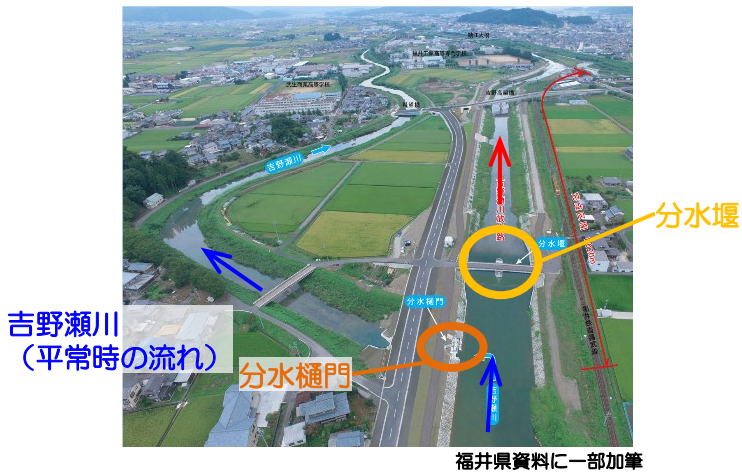


Twitter



吉野瀬川ダムの工事状況

よしのせかわ
吉野瀬川放水路



分水堰



吉野瀬川放水路



分水樋門

最後は吉野瀬川放水路の見学でした。
放水路はH29年度の完成で、洪水時には分水堰を倒すことで放水路に水を流し、市街地への浸水被害を防ぐことなどを福井県河川課より説明していただきました。
放水路整備により、沿川で度々発生していた浸水被害を軽減でき、非常に効果の高い整備となったとのことでした。



○参加者の感想（アンケートより）
 ・吉野瀬川放水路については、出水時の運用や課題等が詳しく聞いて参考になった。
 ・堰は手動であげるということだったので大変ではないかと思った。

意見交換会



グループ別討議の全体状況



現場見学をした後は参加者で意見交換を行いました。
『流域治水を推進するにあたり考えられる課題とアイデア』をテーマとしてグループ形式で意見交換を行い、流域治水の取り組みや課題について理解を深めました。

意見交換会で出た意見

- 関係者の理解をどうやって得ていくかが課題だと考えている。ハード整備だけでは災害の対策としては十分ではないことを理解していただく必要がある。
- 法律を一本化できれば事業を推進しやすいのではないかなと思う。現状は、流域治水に関する法律が多い。
- 規制区域をもうけることによるハレーションを懸念している。
- 効果をどう数値化していくのか。



グループ毎に意見交換を実施

○参加者の感想（アンケートより）

- 担当者の思いや考え方を直接確認でき、流域治水に関する認識等を様々な視点で掘り下げられ、有意義であった。
- テーマをもう少し絞ってもよかった。
- 発表に対する質問が長かった。
- ワークショップが定期的開催され、管内での連携を作っていける場があってもよいのではないかと考えた。

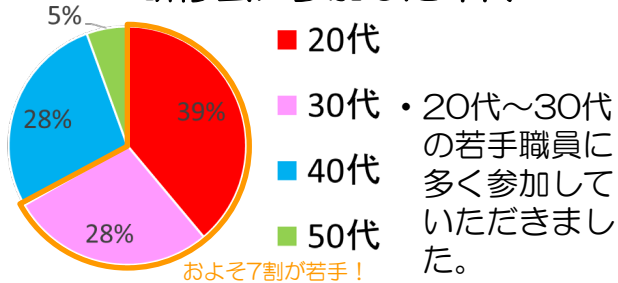


グループでまとめた意見を発表

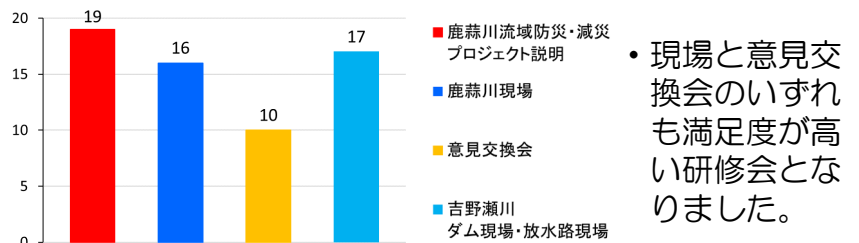
参加者の感想

- 参加いただいた皆様アンケートのご協力をいただきました。
- 皆様からのご意見を踏まえ、今後も技術力向上をはかる取り組みを進めていきます。

研修会に参加した年代



参加して良かった内容（複数回答）



・現場と意見交換会のいずれも満足度が高い研修会となりました。

研修会全般を通じて良かった内容

- ・各府県での課題を聞いたり、参加者からの質問等を通じて気づかされた点もあり、勉強になりました。
- ・現場にたくさんいけたことが良かった。また、地整や他府県の方と交流を深められたことが最も良かった。

現場研修会で参考になった内容

- ・流域治水型の災害復旧として、初めての事例だということで、採択までの経緯等大変興味深かった。
- ・被災から輪中堤という復旧方針の決定、災害査定、復旧工事着手という流れを様々な課題とともに紹介いただき、今後災害が起こった際の参考になった。
- ・危機意識を高めるため1/200確率の浸水マップを作るといのは視覚的に身近に感じることができて効果的だと感じた。

流域治水の悩み事

- ・関係機関の流域治水に対する理解を深めること。
- ・流域治水実施のためのフローがあると良い。
- ・流域治水プロジェクトに基づく流域治水効果を、どのように「見える化」するか。
- ・雨水浸透阻害行為の許可申請の数が多く、作業を効率化したい。

次回以降で、見学してみたい現場

- ・ダム再生事業
- ・遊水地整備事業
- ・DXの取組
- ・宅地嵩上げ
- ・流域治水や土砂洪水氾濫対策の現場
- ・他部局（農林部局など）と協働して実施している対策

編集後記

大野ダムは季節ごとにとってもきれいな風景を見ることができるダムです。春にはさくら祭り、秋にはもみじ祭りといったイベントも開かれているようなので、一度訪れてみたいと思います。

また、福井県の記事にあるように、流域治水の自分事化は重要です。さらにも、皆様が流域治水に触れるきっかけになれば幸いです。

編集担当:奈良県 県土マネジメント部 河川整備課

編集・発刊 : 三重県 福井県 滋賀県 京都府 京都市 大阪府 大阪市 堺市 兵庫県 神戸市 奈良県 和歌山県 国土交通省近畿地方整備局